

## ⑥ピヨピヨ保育園 1968(S43)～

**保育園の誕生** 1960年代後半、日本は経済成長を続け新憲法の下、女性の働く権利が銘記され児童憲章や児童福祉法が作られ、保育所設立の機運が全国的に広がり始めた。鎌倉でも働く女性が産休明けに乳児を預ける施設探しに苦勞する背景があった。

材木座の新婦人の会と婦人民主クラブと母親たちが保育所設立の準備会を作った。梶田三四は滞在していたチェコで夫を航空機事故で亡くして帰国し、ほどなく準備会に加わった。68年4月、材木座の市議青木元二宅の2階を借り保育ママ制度(県の委託)を利用して0歳児4名を預かる0歳児保育所を設立、梶田が初代園長になった。保母初任時給80円の時代である。

**引越しの連続** 70年に保育ママ制度を解消し、共同保育所として市が認めた。定員が増えるに伴い青木宅から材木座3丁目須田宅、さらに5丁目沖崎宅に引越をした。その後も第2、第3保育所開設もあり、毎年のように日当りと風通しの良い部屋のある借家探しに奔走した。手探りの運営は様々な困難を伴ったが、梶田の前向きな姿勢、職員や父母の共感と協力、学びと運動が一体となって、子供たちの健康で伸びやかな保育を

実践していった。無認可保育所にも、家賃補助や保母慰労金など行政の助成が出るようになった。



1970年の園舎 沖崎さん宅



海が遊び場 砂堀 貝拾い

1988年に創立20周年記念の集いを開催し、翌年梶田が退職し佐藤鈴江が95年まで園長を務めた後、橋本志津恵が園長に就任した。

認可をめざして 無認可小規模保育園は赤ちゃんから3歳児までは保育が認められるが、その後は認可園に転園しなければならない。ピヨ保育を継続したい父母や保育士は95年に市に認可の要望書を提出し、99年「認可準備室」を立上げた。社会福祉法人の設立、資金、基準を満たす広さの土地と建物の確保などハードルは高い。無認可のたんぽぽ共同保育園、大船第一共同保育園(現大船ひまわり保育園)と共同で社会福祉法人「新しい芽の会」を設立し1法人3施設という認可運動を進めたが、保育の考え方の違いがあり離脱した。

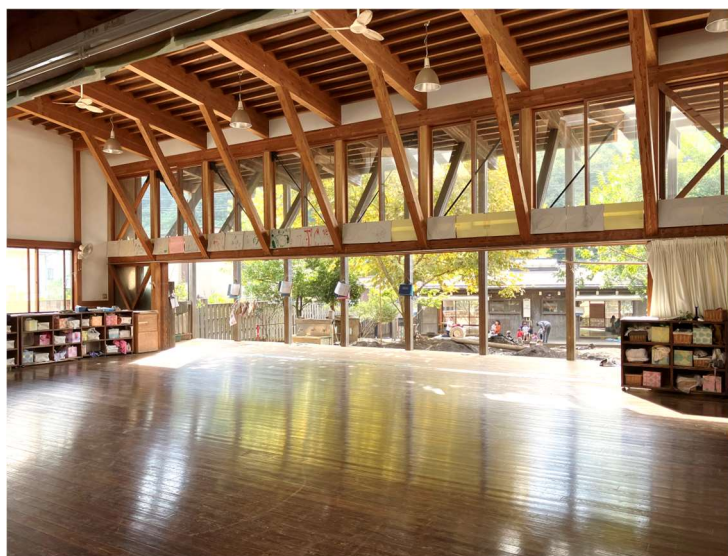
特に土地選定は難航した。臨海学園跡地計画、泉水橋計画、西鎌倉、深沢、材木座 Y 邸など市の斡旋も含め候補地は次々に浮上したが、園児の声騒音など住民の理解を得られずに頓挫。その間 2002 年に園は材木座から由比ガ浜4-6-5のプレハブ仮園舎に移転した。

2010 年、常盤666のネッツトヨタ跡地を地主から借地し 10 月社会福祉法人「ピョピョの会」認可、11 年3月に園舎が落成し、60 名の認可保育園となった。長い道のりを橋本園長と二人三脚で推進したのは、「認可準備室」室長の元父母会会長の建築家熊倉洋介だった。

**ピョ保育** ピョの冊子には児童憲章が書かれる 一、児童は人として尊ばれる 一、児童は社会の一員として重んぜられる 一、児童は良い環境で育てられる ピョ保育は、自然の中で遊び、友達と共に育ち痛みや喜びを分かち合う豊かな感性、しなやかな身体、自分で考え行動し、やり通す子どもに育てる。食事を重んじ、早期教育を戒め、子どもの持つ本来の生命力や治癒力を高め培うことを目指す。

橋本園長はさくら・さくらんぼ保育園の創始者齊藤公子の保育論に共鳴して、斎藤が考案したリズム遊びも積極的に取入れた。伝統の園外保育も重視した。

**今日の課題** 2018年50周年を迎え3月橋本が退職し、熊倉が園長に就任した。異業種からの転職である。多くの私立保育園が直面している財政問題は、賃借の施設や土地の支払い負担である。熊倉は「鎌倉市民間園長会」富田英雄らと市に財政支援への要望書を提出し、子育て環境充実のために、保育士や職員の働き方改革を模索し、地域の子育てセンターに取り組んでいる。



完成した木のぬくもりのある大きな保育ホール



食事風景



中庭で泥んこ遊び



保育ホールから調理師さんの食事作りが見える